

に頼れり。

## 二、葉爾羌<sup>ヤルカンド</sup>

城内の雜  
葉爾羌(回語、葉爾は土地、羌は廣大の意)は、東經七十七度三十二分、北緯三十八度十五分、省會を距る實に五百八十五里、北京を距る一千九百十四里に在り。其の漢回の兩城相距る僅に數町、此間商家櫛比、繁華の街衢を爲し、莎車府<sup>サーチョフ</sup>、協臺兩衙門は之を漢城内に置き、人家總計約七千を有す。漢城は土壁高さ三丈三尺、周圍二里餘、其の廣大なること他に比なく、往昔喀什噶爾の回王都を此地に移せしに因り、城郭廣大、宮殿壯麗と稱へられしも、數度の變亂は、概ね有名なる建築物を破壊し去れりと云ふ。

回城内は街路屈曲且つ狹隘、小溝縱横、處々溜池を湛へて、土人は之を飲用す。其の不潔なること、恰も黴菌養成所の觀あり。然れども露領及印度等よりの商賈蟄集し、殊に印度商人多く、市況甚だ旺盛を極む。産物は生絲、綿、麻、敷物及び菓物等にして、玉石最も名あり。

省內物産の賣却には、悉く釐金を課す。而して其の法一樣ならず。唯釐金局長